

## 第38回北海道麦作共励会審査報告

平成29年度の第38回北海道麦作共励会の出展者の麦づくりおよび審査結果の概要について審査委員を代表して報告申し上げます。

平成29年産の秋まき小麦収量は、532kg/10aで前年対比120%、平年に比べても116%と上回りました。

春まき小麦の収量では、306kg/10aで前年対比・平年対比とも98%とやや下回りました。

全道の収穫量は、約61万トン、当初約57万トンの収穫量を見込んでいましたので計画対比107%の収量となりました。作付面積は、約12.2万haで前年対比99%でした。

一方、品質面では秋まき小麦の1等麦比率が約98%となり、平成26・27年並に高く、基幹品種である「きたほなみ」の品質ランク区分は、地域間差はあるもののタンパク含有率を除きクリアできました。

また、春まき小麦では、収穫期間中に断続的な降雨や低温傾向により穂発芽や低アミロの被害が見られました。また、7月の高温により急激に登熟が進み細麦となり、1等麦比率では77%となりました。

次に麦作共励会の経過について申し上げます。8月9日に第1回審査委員会を開き、8月21日付けで各関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

今年度の出展は、関係者の協力により7点となりました。この内訳は、第1部（畑地における秋まき小麦）個人で2点、同集団で1点。第2部（水田転換畑における秋まき小麦）個人で1点、同集団で1点。第3部（全道における春播き小麦）個人で2点でした。

11月7日に第2回審査委員会を開き、推薦調書を基に審査を行い、部門毎の賞を選考し、12月5日までに現地調査を行い、正式に各賞を決定いたしました。

以下、最優秀賞者の麦づくりの概要について紹介いたします。

### 【畑地における秋まき小麦・個人】部門

浦幌町の林氏は、畑作+園芸の複合経営を行っています。約28haの畑地に小麦、小豆、菜豆、てんさい、ばれいしょ、かぼちゃなどを栽培しています。

平成29年産の収量は、約13俵で、過去2年の平均も13俵を超える高い反収でした。

等級も全量1等、ランク区分も基準値内と申し分のない小麦でした。

安定生産を達成している麦づくりの要因として、特に粘性が高い土壌条件を克服するため、計画的に事業を活用した暗きょ整備を行っています。また、自力で簡易客土を施工する場合には、山砂利と規格外の炭を用いて透・排水性対策を工夫しています。

### 【水田転換畑における秋まき小麦・個人】部門

美唄市の吉田氏は、水田+畑作+園芸の複合経営農家です。経営面積は約16haで、内水田面積は8haです。

平成29年産の収量は、9.4俵で、過去2年の平均反収でも11俵と地区平均の1.4倍と高い反収です。

安定生産を達成している麦づくりの要因として、小麦の連作回避のために田畑輪換や大豆間作

小麦栽培に取り組んでいます。

また、最近では越冬キャベツなどの青果物の生産組織を立ち上げるなど、収益性の高い農業を目指す若手農業者の中心的な役割を担っています。

#### 【畑地における秋まき小麦・集団】部門

摩周コンバイン利用組合は、弟子屈町全域をカバーする地域にあって昭和63年に設立し、現在14戸で構成されています。

経営面積は約1,334haで、内小麦面積は242haです。

平成29年産の収量は、約8俵で全道の平均をやや下回る反収でした。当地区は、他産地に比べ積算気温が低く、日照時間も短く成熟期は8月上旬と全道で最も遅い収穫期を迎えます。

しかし、この気象や土壌条件と向き合いながら、地域一丸となって安定生産を目指し、平成14年以来右肩上がりの反収を得て主産地に近づいています。

#### 【春まき小麦における全道一円・個人】部門

恵庭市の大橋氏は、畑作+園芸の複合経営です。水田転換畑の耕地面積47haに春・秋まき小麦、てんさい、大豆、だいこんを栽培しています。

平成29年産の収量は、8俵と全道平均の1.6倍と高く、1～2等麦比率も89%と高い成績でした。

平成元年に中古の普通型コンバインを導入し、水稻で利用していた縦型乾燥機をフル活用して安定生産の麦づくりに励んでいます。

また、泥炭地帯であることから、明・暗きよの整備による透・排水性改善には万全を期し、加えて平成23年にはレーザーレベラを導入し表面排水なども行っています。

以上のように、それぞれ受賞された皆さんは、輪作体系を守り、土づくりを基本に、透・排水性を良くし、きめ細かな肥培管理に心がけています。

また皆さんは地域の仲間を大切に、地域のすばらしい牽引力となっております。これまでのご努力に敬意を表するとともに、この度の受賞を心からお祝い申し上げたいと思います。

最後に本年度の麦作共励会に関係された皆さんにお礼申し上げるとともに、今後とも北海道の麦作振興に尽力されることをご祈念申し上げて審査報告と致します。

第38回（平成29年度）北海道麦作共励会審査委員長

農研機構北海道農業研究センター作物開発研究領域長 川 口 健太郎